KOUCHOU SENSEI kara HITOKOTO

勉強は団体戦

校長 深沢信吾

高校で勉強することを戦いにたとえるのは適切ではないかもしれませんが、一般に考えられているように、勉強は個人でやるもの、個人戦だというのは、少し違うのではないかと思われます。勉強がうまくいくためには、個人の努力や意欲の高さ、目的意識の強さなどが必要ですが、それと同時に、個人を取り巻く環境が整ったものでなければなりません。それは施設や設備ばかりでなく、人的な環境、すなわち本人が知的な刺激を多く受ける状態にあることが重要です。すばらしい教師がいることは、当然、勉強への意欲に大いに影響しますが、何よりも必要なのは、高め合い、励まし合い、時には競い合う友がそばにいることです。そういう意味で勉強は団体戦であるといえるのです。考えたり、課題に答えたりすることは、個人の行為なのですが、そこで一緒に悩んだり、何かを調べたりする友の存在は、勉強の成果ということを考えても、欠くことのできないものです。勉強を個人的な経験にとどめず、協働性を持たせることで、その厚みも深みも違ってくるからです。

Raise it and encourage each other and sometimes compete.

大切なことは、友がいるから頑張る、友に負けないで頑張るといった気持ちの面での支えです。切磋琢磨とはこのことをいうのではないでしょうか。

勉強は、教師から生徒が学ぶだけでなく、友からも学ぶものが大きいのです。

巨摩高校が団体戦を戦う上で最良な環境であり続けることを願います。

特集 白嶺祭 2014 煌 ～きらめき～

9月26日の役員引き継ぎ式をもって
生徒会活動を勇退した前会長に、生徒会活動を振り返ってもらいました。

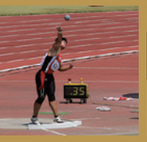
前生徒会長 三年 中澤諒平（白根御勅使中出身）

私は生徒会長を経験して、改めて巨摩高校の良さを実感しました。白嶺祭では、全校生徒で協力し合い、先生方も一緒になって素晴らしい学園祭を創り上げることができました。先生と生徒の距離は近く、先生方はいつも親身になって相談にのってくださいます。

また、巨摩高は歴史と伝統があり、昨年は創立九十周年を迎え、今年は学園祭が六十回目の節目でした。制服も昔から変わらず、制服を着て外を歩いていると、地域の方々から声を掛けられることも少なくありません。地域との関わりが深く、一月にある巨摩フェスタでは文化部が地域の方々に日頃の練習の成果を発表しています。

皆さんに支えていただき、無事に生徒会長の任期を終えられたことを感謝しています。

特集 2014年度 全国高校総体 煌めく青春 南関東高校総体開催



2014年度の全国高校総体は、東京・千葉・神奈川・山梨の南関東4県で開催されました。巨摩高からは地元開催の女子ホッケーにホッケー部、陸上競技男子砲丸投げに雨宮巧くん（2年／櫛形中出身）、東京で開催された弓道競技に大森一樹くん（3年／甲西中出身）、佐久間有咲さん（2年／櫛形中出身）が出場しました。また、地元開催ということで多数の巨摩高生が補助員として活躍、また応援にも参加しました。

インターハイに出場して

●ホッケー部 三年 山本美貴（巨摩中出身）

八月三日、白根中央公園でインターハイが開催されました。私たちは一回戦、山口県立西京高校と対戦しました。このような大きな舞台でプレーすることができ、その場でしか味わえない興奮や緊張を経験し、とても貴重な試合となりました。私たちはこの大会を通して、チームでまとまり、チームとして団結してプレーすることの大切さを学びました。私たちは今まで、個々でのプレーが多く、チームで助け合うことができていませんでしたが、一人ひとりが強い気持ちでチームのためにプレーすることが大事だと改めて感じました。

今回は地元ということで多くの方々に協力、応援していただき本当に感謝しています。

インターハイ出場

●弓道部 三年 大森一樹（甲西中出身）

私は高校に入り、初めて弓道部に所属しました。いつも高い目標を持ち、毎日の練習を懸命に行ってきました。試合が近いときには朝練習などに積極的に参加し、三年生最後の県予選で実力を発揮できたときはとても嬉しく、努力することの大切さを改めて学びました。

インターハイ本番では私は一番始めだったのでとても緊張しました。県内の大会とは全く異なり、会場全体が盛り上がっていて、全国大会を肌で感じました。インターハイを通じて全国のレベルを知り、自分の実力がどれくらいあるのかを学ぶことができました。インターハイに出場することができ、貴重な経験をさせていただきました。

インターハイの補助員をして

●陸上部 一年 石川幸歩（若草中出身）

二日間受付をしました。いつ到着するのかわからない選手を待ち続けるのは大変でしたが、「お疲れさま」と声をかけてもらい嬉しく思いました。競技では新記録の樹立や山梨県選手の活躍など感動する場面が多くありました。暑い中補助員をするのは大変でしたが、選手の方々が頑張っているのを見ると、疲れを忘れることができました。また、補助員をして、自分も大きい大会で走りたいと思いました。とてもよい経験ができました。

インターハイの応援に行って

二年 杉田楊平（増穂中出身）

私は八月一日に行われた、全国高校総体陸上競技の砲丸投げ競技に出場した友人の応援に行きました。彼は実力のある選手で、この大会でもとても力強いプレーを見せてくれました。思わず熱くなるその試合では、彼が普段では見せない顔を見ることができ、非常に貴重な経験となりました。私もそれに倣って、より充実した学校生活を送っていこうと思います。

特集 SSH スーパーサイエンスハイスクール

飛び出せ、科学の世界へ SSH研修 全国を舞台に展開!!

▲SSH筑波研修

大海を知ったSSH全国大会

三年 杉山一輝（八田中出身）

私は、SSH全国大会に行ってきました。そこでは、普通の高校生が見ることができないような研究を見ることができます。それによって自分の知識を深め、視野を広げることができます。また、他県やさらには海外の高校生と交流することができます。私は名古屋の人と友人になれました。研究が好きな人、興味がある人は行くべきです！

SSH東海村研修に参加して

二年 矢崎 聡（櫛形中出身）

八月二十日、二十一日に私たち二年六組はSSH活動の一環で茨城県の東海村へ研修に行ってきました。原子力や放射線に関する施設で最先端の技術を見学したことで、これらが社会にどのように関わっているがわかり、自分自身の興味関心をさらに深めることができました。この研修に参加して、様々な発見があり、とても有意義な二日間でした。

▲SSH全国大会

▲SSH東海村研修

▲SSH下田研修

▲SSH山梨大学研修

SSH下田研修に参加して

一年 野田永佳（白根巨摩中出身）

夏休み期間の中で、私たちは筑波研修、下田研修を体験してきました。下田研修は筑波大学臨海実習センターで行われ、そこで実際にウニの人工授精を体験しました。とても貴重な経験をすることができ、それに伴い、生物に対する興味関心を高めることができました。また、参加者の交友も深まり、とても意味のある研修だったと思います。

最先端の科学技術

一年 中島 諒（櫛形中出身）

僕は筑波の様々な研修機関に行って、日本の技術はすごいと思いました。例えば、高エネルギー加速器研究機構では、電子同士を加速させぶつけることで別の物質を生み出すことできるというものです。他にも様々な場所へ行きましたが、僕は日本の技術を直にみることができ、本当に良かったと思います。皆さんも是非行ってみてください。